様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	都城工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科		0	0	11	11	7	
	電気情報工学科				12	12	7	
	物質工学科				9	9	7	
	建築学科				14	14	7	
	機械電気工学専攻			2	12	14	7	
	物質工学専攻				6	8	7	
	建築学専攻				10	12	7	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

機械工学科 syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=49&department_id=11&year=2026&lang=ja 電気情報工学科 syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=49&department_id=12&year=2026&lang=ja 物質工学科 syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=49&department_id=13&year=2026&lang=ja 建築学科 syllabus.kosen-	

k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=49&department_id=14&year=2026&lang=ja 機械電気工学専攻 syllabus.kosen- k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=49&department_id=21&year=2026&lang=ja 物質工学専攻 syllabus.kosen- k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=49&department_id=22&year=2026&lang=ja 建築学専攻 syllabus.kosen- k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=49&department_id=23&year=2026&lang=ja	

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	都城工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	国立高等専門学校　理事（2024 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）	2026 年 4 月 1 日～2029 年 3 月 31 日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026 年 4 月 1 日～2026 年 10 月 15 日	総務
非常勤	東京大学教授	2026 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は 2024 年 3 月 31 日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	都城工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 前年度２月頃に各授業担当教員が授業計画を作成し、教務主事及びシラバス担当者が内容を確認した上で、開講の前年度末までにホームページに公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/syllabus/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 担当教員が、授業計画書に記載された成績の評価方法並びに評価基準に基づき、各学生の学修成果を評価し、進級判定会議及び卒業判定会議において、本校の学業成績の評価及び課程の修了等に関する規則における科目履修の認定要件（当該科目の出席時数が４分の３以上の者。ただし、病気等やむを得ない事由により欠席が長期にわたる場合は、３分の２以上出席している者。）及び単位修得の認定要件（当該科目の成績評価が６０点以上又は合格の場合。）を満たしていることを確認した上で単位又は履修を認定している。	
３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 客観的な指標として、履修科目の成績評価を 100 点満点で点数化し、全科目の合計点の平均を算出している。 また、その指標の数値を各クラス単位で取りまとめ、成績の分布状況を把握している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/edu-info/H31_seisekihyouka.pdf
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念として掲げ、この理念のもと、各学科共通及び各専門学科の定めた修得すべき能力を身につけ、準学士課程の学習・教育目標とサブ目標を達成し、第５学年終了時において１６７単位（一般科目７５単位以上、専門科目８２単位以上）の単位修得した学生について卒業を認定し、準学士の学位を授与している。 この認定方針に基づき、教務委員会において、学生の準学士課程における学習・教育目標及びサブ目標の達成状況について確認を行い、また、卒業判定会議において、学生の修得単位数の確認を行い、卒業を認定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	都城工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyouhoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告（書）	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和８年度　）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）
中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：令和６年度から令和 10 年度）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/disclosure/data/04077e84480f15e675c0deaa5097637e_1.pdf

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　機械工学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/ideal/）
（概要） 【学科共通の目的】 専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力、広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力、様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力、英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力、技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力を身につけた技術者の養成を目的とする。 【機械工学科】 機械工学の基礎知識・基礎技術を用いて設計から製作までを実践できる総合的能力並びに機械工学に関する様々な物理現象を評価・分析し、ものづくりのプロセスを提案・改善できる学術的能力を身につけた技術者の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=1）
（概要） 「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念として掲げ、この理念のもと、各学科共通及び機械工学科で定めた修得すべき能力を身につけ、準学士課程の学習・教育目標とサブ目標を達成し、第５学年終了時において１６７単位（一般科目７５単位以上、専門科目８２単位以上）の単位修得した学生について卒業を認定し、準学士の学位を授与している。 ＜修得すべき能力＞ 【各学科共通】 （１）専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力 （２）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力 （３）様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力 （４）英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力 （５）技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力 【機械工学科】 （１）機械工学の基礎知識、基礎技術を用い、設計から製作までを実践できる総合的能力 （２）機械工学に関する様々な物理現象を評価・分析し、ものづくりのプロセスを提案・改善できる学術的能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=3）

（概要）
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、全国高専共通のモデルコアカリキュラム（MCC）をベースに一般科目（人文・社会、外国語、数理・自然科学、情報）と専門科目（機械、電気情報、物質、建築）を体系的に教育課程（カリキュラム）を編成している。
カリキュラムは、講義、演習、実験実習を１年次より５年次まで適切に組み合わせた授業を開講している。カリキュラムの体系は、Web シラバスにより授業内容や科目間の関連をわかりやすく明示している。
ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を養成するために、以下の科目を開講している。
（１）一般科目：必修科目（国語、英語、物理、基礎数学、情報基礎など）と選択科目（美術、法学など）を基盤とした基礎科目
（２）専門科目：各専門学科の技術修得に関する専修科目（工学実験、情報処理演習、校外実習など）の実技科目と必修科目（微分方程式、応用物理、情報基礎など）からなる専門科目
（３）卒業研究：最終学年の５年次に高専教育の総合的能力（課題解決能力、論理的な思考力、チームワーク力、プレゼンテーション能力など）を開発するための科目
（４）機械工学の基礎知識・技術を育む科目：
いわゆる 4 力学（機械力学、材料力学、熱力学、流体力学）などを基盤とした基礎専門科目、および実践的な設計製図、工作実習、工学実験などの基礎技術科目
（５） 創造的能力を育む科目：
創造設計などの、創造的能力（課題解決能力、論理的思考力、応用力、プロジェクトマネージメント力、チームワーク力など）を開発するための科目
（６） 技術者としての倫理観・判断能力を育む科目：
技術者倫理概論などの、技術者としての社会的責任を自覚させ、技術的倫理・価値観を涵養する科目

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=5）

（概要）
本校は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示す能力を持った学生を育成するために、教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を実施する。この教育を受けるに相応しい人材を以下に示す。
（１）様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
（２）科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
（３）技術者として社会に役立ちたいと考えている人
（４）責任をもって継続的にものごとを実行できる人
上記に示す人材を確保するために、本科入学においては推薦選抜試験及び学力選抜試験を行い、４年生の編入学においては学力選抜試験を行う。

学部等名　電気情報工学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/ideal/）

（概要）
【学科共通の目的】
専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力、広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力、様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力、英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力、技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力を身につけた技術者の養成を目的とする。
【電気情報工学科】
電気情報工学分野である電気、電子、制御、通信、情報の広範な基礎学力を身につけ

た適応力のある実践的能力並びに電気情報工学に関する課題、現象、社会問題を把握する洞察力と創造的能力を身につけた技術者の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=1）

（概要）

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念として掲げ、この理念のもと、各学科共通及び機械工学科で定めた修得すべき能力を身につけ、準学士課程の学習・教育目標とサブ目標を達成し、第５学年終了時において１６７単位（一般科目７５単位以上、専門科目８２単位以上）の単位修得した学生について卒業を認定し、準学士の学位を授与している。

＜修得すべき能力＞

【各学科共通】

（１）専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力

（２）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力

（３）様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力

（４）英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力

（５）技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力

【電気情報工学科】

（１）電気情報工学分野である電気、電子、制御、通信、情報の広範な基礎学力を身に付けた適応力のある実践的能力

（２）電気情報工学に関する課題、現象、社会問題を把握する洞察力および創造的能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=3）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、全国高専共通のモデルコアカリキュラム（MCC）をベースに一般科目（人文・社会、外国語、数理・自然科学、情報）と専門科目（機械、電気情報、物質、建築）を体系的に教育課程（カリキュラム）を編成している。

カリキュラムは、講義、演習、実験実習を１年次より５年次まで適切に組み合わせた授業を開講している。カリキュラムの体系は、Web シラバスにより授業内容や科目間の関連をわかりやすく明示している。

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を養成するために、以下の科目を開講している。

（１）一般科目：必修科目（国語、英語、物理、基礎数学、情報基礎など）と選択科目（美術、法学など）を基盤とした基礎科目

（２）専門科目：各専門学科の技術修得に関する専修科目（工学実験、情報処理演習、校外実習など）の実技科目と必修科目（微分方程式、応用物理、情報基礎など）からなる専門科目

（３）卒業研究：最終学年の５年次に高専教育の総合的能力（課題解決能力、論理的な思考力、チームワーク力、プレゼンテーション能力など）を開発するための科目

（４）電気情報工学の基礎科目（Ｉ群科目）：電気、電子、制御、通信、情報工学を基盤とした基礎専門科目

（５）技術習得に関する科目（必修科目）：電気製図、電気情報工学実験、電子電気情

報設計などの実践的能力育成のための実技科目
（６）学際的能力育成科目（必修科目）：ゼミなどの、適応力のある実践的能力、学際的能力を開発するための科目

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=5）

（概要）
本校は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示す能力を持った学生を育成するために、教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を実施する。この教育を受けるに相応しい人材を以下に示す。
（１）様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
（２）科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
（３）技術者として社会に役立ちたいと考えている人
（４）責任をもって継続的にものごとを実行できる人
上記に示す人材を確保するために、本科入学においては推薦選抜試験及び学力選抜試験を行い、４年生の編入学においては学力選抜試験を行う。

学部等名　物質工学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/ideal/）

（概要）
【学科共通の目的】
専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力、広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力、様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力、英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力、技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力を身につけた技術者の養成を目的とする。
【物質工学科】
物質工学とそれに関係する基礎的な理論および技術を確実に理解し応用できる能力、物質工学に関する課題、現象、社会問題を主体的に把握し解決する能力と創造的能力、自らの考えを論理的に展開でき、発表・議論ができる能力並びに化学英語に関する文書作成やプレゼンテーションができる能力を身につけた技術者の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=1）

（概要）
「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念として掲げ、この理念のもと、各学科共通及び機械工学科で定めた修得すべき能力を身につけ、準学士課程の学習・教育目標とサブ目標を達成し、第５学年終了時において１６７単位（一般科目７５単位以上、専門科目８２単位以上）の単位修得した学生について卒業を認定し、準学士の学位を授与している。
＜修得すべき能力＞
【各学科共通】
（１）専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力
（２）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力
（３）様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力

（4）英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力
（5）技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力
【物質工学科】
（1）物質工学とそれに関係する基礎的な理論および技術を確実に理解し、応用できる能力
（2）物質工学に関する課題、現象、社会問題を主体的に把握し解決する能力および創造的能力
（3）自らの考えを論理的に展開でき、発表・議論ができる能力、化学英語に関する文書作成やプレゼンテーションができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=3）

（概要）
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、全国高専共通のモデルコアカリキュラム（MCC）をベースに一般科目（人文・社会、外国語、数理・自然科学、情報）と専門科目（機械、電気情報、物質、建築）を体系的に教育課程（カリキュラム）を編成している。
カリキュラムは、講義、演習、実験実習を１年次より５年次まで適切に組み合わせた授業を開講している。カリキュラムの体系は、Web シラバスにより授業内容や科目間の関連をわかりやすく明示している。
ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を養成するために、以下の科目を開講している。
（1）一般科目：必修科目（国語、英語、物理、基礎数学、情報基礎など）と選択科目（美術、法学など）を基盤とした基礎科目
（2）専門科目：各専門学科の技術修得に関する専修科目（工学実験、情報処理演習、校外実習など）の実技科目と必修科目（微分方程式、応用物理、情報基礎など）からなる専門科目
（3）卒業研究：最終学年の５年次に高専教育の総合的能力（課題解決能力、論理的な思考力、チームワーク力、プレゼンテーション能力など）を開発するための科目
（4） 物質工学の基礎科目：分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、生物化学などの化学の基礎専門科目
（5） 実践的技術修得に関する科目：基礎化学実験、無機化学実験、有機化学実験、物理化学実験、生物工学実験、工学演習などの各年次に配置された実技科目。化学工学、生物工学、材料化学などの応用化学や応用生物を中心とした科目
（6） 豊かな創造力育成科目：講義と並列した実験・演習科目および卒業研究などの課題解決能力、論理的思考力、応用力、チームワーク力といった創造性能力を開発するための科目
（7） コミュニケーション能力：各年次に配置された実験および演習科目や外国語科目において、日本語および外国語による論理的記述能力、プレゼンテーション能力、討議等におけるコミュニケーション能力を養成するための科目

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=5）

（概要）
本校は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示す能力を持った学生を育成するために、教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を実施する。この教育を受けるに相応しい人材を以下に示す。
（１）様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
（２）科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
（３）技術者として社会に役立ちたいと考えている人
（４）責任をもって継続的にものごとを実行できる人
上記に示す人材を確保するために、本科入学においては推薦選抜試験及び学力選抜試験を行い、４年生の編入学においては学力選抜試験を行う。

学部等名　建築学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/ideal/）

（概要）
【学科共通の目的】
専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力、広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力、様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力、英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力、技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力を身につけた技術者の養成を目的とする。
【建築学科】
建築学全般において、性能、安全性、環境負荷、経済性などに配慮し、建築物を計画・設計できる能力並びに国内外の建築に関わる歴史や文化について、さまざまな事柄を認識できる学術的能力を身につけた技術者の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=1）

（概要）
「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念として掲げ、この理念のもと、各学科共通及び機械工学科で定めた修得すべき能力を身につけ、準学士課程の学習・教育目標とサブ目標を達成し、第５学年終了時において１６７単位（一般科目７５単位以上、専門科目８２単位以上）の単位修得した学生について卒業を認定し、準学士の学位を授与している。
＜修得すべき能力＞
【各学科共通】
（１）専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力
（２）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力
（３）様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力
（４）英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力
（５）技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力
【建築学科】
（１）建築学全般において、性能、安全性、環境負荷、経済性などに配慮し、建築物を計画・設計できる能力
（２）国内外の建築に関わる歴史や文化について、さまざまな事柄を認識できる学術的能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=3）

（概要）
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、全国高専共通のモデルコアカリキュラム（MCC）をベースに一般科目（人文・社会、外国語、数理・自然科学、情報）と専門科目（機械、電気情報、物質、建築）を体系的に教育課程（カリキュラム）を編成している。
カリキュラムは、講義、演習、実験実習を１年次より５年次まで適切に組み合わせた授業を開講している。カリキュラムの体系は、Web シラバスにより授業内容や科目間の関連をわかりやすく明示している。
ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を養成するために、以下の科目を開講している。
（１）一般科目：必修科目（国語、英語、物理、基礎数学、情報基礎など）と選択科目（美術、法学など）を基盤とした基礎科目
（２）専門科目：各専門学科の技術修得に関する専修科目（工学実験、情報処理演習、校外実習など）の実技科目と必修科目（微分方程式、応用物理、情報基礎など）からなる専門科目
（３）卒業研究：最終学年の５年次に高専教育の総合的能力（課題解決能力、論理的な思考力、チームワーク力、プレゼンテーション能力など）を開発するための科目
（４）構造分野：鉄筋コンクリート構造や鋼構造および木質構造など構造設計の根本となる技術や、地震災害の脅威から建物・都市の安全を確保するための技術に関する科目
（５）生産・材料分野：建築材料の種類や特徴、建築生産のための技術に関する科目
（６）計画分野：設計に必要な計画理論としての生活と空間の係わりに関する技術、都市と生活の係わりに関する技術、計画の意図を適切に表現するための技術に関する科目
（７）環境工学・設備分野：建築空間の快適性・利便性とそれを実現するための技術、給排水衛生、空気環境、熱環境のための技術に関する科目
（８）建築史分野：古代から現代の建築に至る西洋と日本のデザイン・構造の歴史に関する科目

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/3policy_jyungakushi.pdf#page=5）

（概要）
本校は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示す能力を持った学生を育成するために、教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を実施する。この教育を受けるに相応しい人材を以下に示す。
（１）様々な分野に関心をもち総合的な基礎学力がある人
（２）科学と工学を基礎とした「ものづくり」に興味がある人
（３）技術者として社会に役立ちたいと考えている人
（４）責任をもって継続的にものごとを実行できる人
上記に示す人材を確保するために、本科入学においては推薦選抜試験及び学力選抜試験を行い、４年生の編入学においては学力選抜試験を行う。

学部等名　機械電気工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/ideal/）

（概要）
機械工学・電気情報工学の基礎知識と技能を基盤として、両工学分野の連携技術に対応できる能力並びに高度化した設計・開発・研究に対応できる創造的なデザイン能力と問題解決能力を身につけた技術者の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=1）

（概要）

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念として掲げ、この理念のもと、専攻科に 2 年以上在学して以下に定めた修得すべき能力を身につけ、学士課程の学習･教育到達目標とサブ目標を達成し、合計 62 単位以上(うち一般科目 6 単位以上、専門共通科目 8 単位以上、専門専攻科目 38 単位以上)の単位修得及び後述する修了要件を満たした学生について修了を認定する。

＜修得すべき能力＞

【各専攻共通】

（1）専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力

（2）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力

（3）様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力

（4）英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力

（5）技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力

【機械電気工学専攻】

（1）機械工学・電気情報工学の基礎知識と技能を基盤として、両工学分野の連携技術に対応できる技術者としての能力

（2）高度化した設計・開発・研究に対応できる創造的なデザイン能力と問題解決能力を備えた技術者としての能力

＜修了要件＞

上に述べた在学期間と合計単位数以外に、以下の 2 要件を満たす必要がある。

（1）必修科目と選択科目の受講と修得

必修科目については全科目を修得しなければならない。選択科目については所定科目をそれぞれ履修して、成績の評価を受けなければならない。また（2）に示す「生産デザイン工学」プログラムに定める必修科目と選択科目についても同様である。

（2）「生産デザイン工学」プログラムの履修要件

以下に示す「生産デザイン工学」プログラムの修了要件Ⅰ～Ⅵをすべて満たす必要がある。

Ⅰ．学士の学位を取得していること。

Ⅱ．学協会等で発表を行っていること。

Ⅲ．「生産デザイン工学」プログラムの学習・教育到達目標の達成度評価基準を満たしていること。

Ⅳ．基礎工学の知識・能力を養うために、次の科目を修得していること。

1）自然科学系科目の内、下記の科目を修得していること。

数学系： 微分方程式、応用数学、線形数学、解析学特論

物理系： 応用物理、応用物理特論

自然科学系： 地球環境科学、一般化学

2）基礎工学科目の内、下記の各科目群から少なくとも 1 科目、合計最低 6 科目を修得していること。

① 設計・システム系科目群 ② 情報・論理系科目群 ③ 材料・バイオ系科目群 ④ 力学系科目群 ⑤ 社会技術系科目群

Ⅴ．専門工学科目は全て修得していること。

Ⅵ．「生産デザイン工学」プログラム科目を合計で 124 単位以上修得しているこ

と。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=4）

（概要）

専攻科の学士課程では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる能力が身につけられるように、以下に示す一般科目（人文・社会、外国語、数理・自然科学、情報）、専門科目（機械電気工学、物質工学、建築学）、特別研究Ⅰ・Ⅱなどからなる教育課程（カリキュラム）が体系的に編成されている。

（１）一般科目

一般科目では、特に学習・教育到達目標の「(C)世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成」を図るため、以下のような科目群を開講している。

① 英語（総合英語、実用英語） ② 社会（知的財産権、倫理学、歴史学）
③ 国語（中国古典学、文章表現法）

（２）専門共通科目

専門共通科目では、特に学習・教育到達目標の「(D)自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力を有する技術者の育成」を図るため、以下のような科目群を開講している。

① 地球環境科学 ② 技術者倫理 ③ 数学（線形数学、統計学特論、解析学特論）
④ 一般化学 ⑤ 物理（一般力学、応用物理特論） ⑥ 応用情報工学

（３）専門科目

専門科目では、特に学習・教育到達目標の「(A)あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成」と「(B)科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成」を図るため、各科目群を開講している。

機械電気工学専攻では、出身の機械工学系と電気情報工学系の学科に対応した選択科目を開設し、さらに、機械と電気・情報の連携技術に対応できるようにメカトロニクス、パワーエレクトロニクス及び半導体等の新素材を含む先端技術に広く係わる教育を行う。高度に情報化された機械工学と電気情報工学を統合した設備の設計や開発技術全体を掌握できる能力を有する研究開発型技術者の育成を目指している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=6）

（概要）

専攻科では、修了認定の方針(ディプロマ･ポリシー)に示す能力を持った学生を育成するために、教育課程編成の方針(カリキュラム･ポリシー)に定める教育を実施する。この教育に相応しい人材を以下に示す。

（１）科学と工学の基礎学力を十分に身につけている人
（２）より高い専門的な技術を磨く意欲のある人
（３）技術者として地域社会および国際社会の発展に貢献できる素養のある人
（４）社会性と倫理観をもち、自主的に行動できる人

上記に示す人材を確保するために、高等専門学校（以下「高専」という。）卒業見込者で成績優秀者を対象に推薦選抜試験を、また高専や短期大学等（以下「高専等」という。）卒業者（卒業見込者を含む） 等を対象に学力選抜試験を行う。さらに、高専等の既卒者で、社会人としての実務経験を有する者を対象とする社会人特別選抜試験を行う。

学部等名　物質工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/ideal/）

（概要）

物質工学の基礎的・実践的知識及び技術の上に、より高度な新素材開発技術、物質生産技術及び環境保全技術を有し、化学工業界の要望に応えることのできる総合的技術に基づいた幅広い視野と創造性を身につけた技術者の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=1）

（概要）

「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念として掲げ、この理念のもと、専攻科に 2 年以上在学して以下に定めた修得すべき能力を身につけ、学士課程の学習･教育到達目標とサブ目標を達成し、合計 62 単位以上(うち一般科目 6 単位以上、専門共通科目 8 単位以上、専門専攻科目 38 単位以上)の単位修得及び後述する修了要件を満たした学生について修了を認定する。

＜修得すべき能力＞

【各専攻共通】

（１）専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力

（２）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力

（３）様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力

（４）英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力

（５）技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力

【物質工学専攻】

（１）物質工学の基礎的・実践的知識および技術の上に、より高度な新素材開発技術、物質生産技術および環境保全技術を有する技術者としての能力

（２）化学工業界の要望に応えることのできる総合的技術に基づいた幅広い視野と創造性を持った技術者としての能力

＜修了要件＞

上に述べた在学期間と合計単位数以外に、以下の 2 要件を満たす必要がある。

（１）必修科目と選択科目の受講と修得

必修科目については全科目を修得しなければならない。選択科目については所定科目をそれぞれ履修して、成績の評価を受けなければならない。また（２）に示す「生産デザイン工学」プログラムに定める必修科目と選択科目についても同様である。

（２）「生産デザイン工学」プログラムの履修要件

以下に示す「生産デザイン工学」プログラムの修了要件Ⅰ～Ⅵをすべて満たす必要がある。

Ⅰ．学士の学位を取得していること。

Ⅱ．学協会等で発表を行っていること。

Ⅲ．「生産デザイン工学」プログラムの学習・教育到達目標の達成度評価基準を満たしていること。

Ⅳ．基礎工学の知識・能力を養うために、次の科目を修得していること。

１）自然科学系科目の内、下記の科目を修得していること。

数学系： 微分方程式、応用数学、線形数学、解析学特論

物理系： 応用物理、応用物理特論

自然科学系： 地球環境科学、一般化学（物質工学専攻生は専門科目で代用）

２）基礎工学科目の内、下記の各科目群から少なくとも 1 科目、合計最低 6 科

目を修得していること。
① 設計・システム系科目群 ② 情報・論理系科目群 ③ 材料・バイオ系科目群
④ 力学系科目群 ⑤ 社会技術系科目群
Ⅴ．専門工学科目は全て修得していること。
Ⅵ．「生産デザイン工学」プログラム科目を合計で 124 単位以上修得していること。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=4）

（概要）
専攻科の学士課程では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる能力が身につけられるように、以下に示す一般科目（人文・社会、外国語、数理・自然科学、情報）、専門科目（機械電気工学、物質工学、建築学）、特別研究Ⅰ・Ⅱなどからなる教育課程（カリキュラム）が体系的に編成されている。
（１）一般科目
一般科目では、特に学習・教育到達目標の「(C)世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成」を図るため、以下のような科目群を開講している。
① 英語（総合英語、実用英語） ② 社会（知的財産権、倫理学、歴史学）
③ 国語（中国古典学、文章表現法）
（２）専門共通科目
専門共通科目では、特に学習・教育到達目標の「(D)自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力を有する技術者の育成」を図るため、以下のような科目群を開講している。
① 地球環境科学 ② 技術者倫理 ③ 数学（線形数学、統計学特論、解析学特論）
④ 一般化学 ⑤ 物理（一般力学、応用物理特論） ⑥ 応用情報工学
（３）専門科目
専門科目では、特に学習・教育到達目標の「(A)あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成」と「(B)科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成」を図るため、各科目群を開講している。
物質工学専攻では、同専攻の目的と教育概要に記載した３つの人材育成を目的として、「生産デザイン工学」プログラムの教育目標を達成できるように教育を行っている。具体的には、本科に配置された物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学、化学工学などの基礎科目を充実させるための応用科目を配している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=6）

（概要）
専攻科では、修了認定の方針(ディプロマ･ポリシー)に示す能力を持った学生を育成するために、教育課程編成の方針(カリキュラム･ポリシー)に定める教育を実施する。この教育に相応しい人材を以下に示す。
（１）科学と工学の基礎学力を十分に身につけている人
（２）より高い専門的な技術を磨く意欲のある人
（３）技術者として地域社会および国際社会の発展に貢献できる素養のある人
（４）社会性と倫理観をもち、自主的に行動できる人
上記に示す人材を確保するために、高等専門学校（以下「高専」という。）卒業見込者で成績優秀者を対象に推薦選抜試験を、また高専や短期大学等（以下「高専等」という。）卒業者（卒業見込者を含む） 等を対象に学力選抜試験を行う。さらに、高専等

の既卒者で、社会人としての実務経験を有する者を対象とする社会人特別選抜試験を行う。

学部等名　建築学専攻
教育研究上の目的（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/ideal/）
（概要） 建築の特定分野において、高度な責任能力を有し、自ら問題を発見し解決できる能力並びに建築文化の発展と豊かな都市空間の創造に寄与できる能力を身につけた技術者の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=1）
（概要） 「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念として掲げ、この理念のもと、専攻科に 2 年以上在学して以下に定めた修得すべき能力を身につけ、学士課程の学習･教育到達目標とサブ目標を達成し、合計 62 単位以上(うち一般科目 6 単位以上、専門共通科目 8 単位以上、専門専攻科目 38 単位以上)の単位修得及び後述する修了要件を満たした学生について修了を認定する。 ＜修得すべき能力＞ 【各専攻共通】 （１）専門分野を理解する上で必要な数学、物理学の基礎的知識を有し、それらの知識を専門分野に応用できる総合的能力 （２）広範な知識と豊かな人間性・社会性を持ち、複合分野で活躍できる学際的能力 （３）様々な工学的手法を駆使し、周囲とのコミュニケーションを図りながら技術的な課題や問題を解決に導く創造的能力 （４）英語能力及び論理的な思考による文章作成能力と効果的なプレゼンテーション能力 （５）技術者の社会的責任に基づく倫理的判断能力 【建築学専攻】 （１）建築の特定分野において、高度な責任能力を有し、自ら問題を発見し解決できる技術者としての能力 （２）建築文化の発展と豊かな都市空間の創造に寄与できる技術者としての能力 ＜修了要件＞ 上に述べた在学期間と合計単位数以外に、以下の 2 要件を満たす必要がある。 （１）必修科目と選択科目の受講と修得 必修科目については全科目を修得しなければならない。選択科目については所定科目をそれぞれ履修して、成績の評価を受けなければならない。また（２）に示す「生産デザイン工学」プログラムに定める必修科目と選択科目についても同様である。 （２）「生産デザイン工学」プログラムの履修要件 以下に示す「生産デザイン工学」プログラムの修了要件Ⅰ～Ⅵをすべて満たす必要がある。 Ⅰ．学士の学位を取得していること。 Ⅱ．学協会等で発表を行っていること。 Ⅲ．「生産デザイン工学」プログラムの学習・教育到達目標の達成度評価基準を満たしていること。 Ⅳ．基礎工学の知識・能力を養うために、次の科目を修得していること。 １）自然科学系科目の内、下記の科目を修得していること。

数学系： 微分方程式、応用数学、線形数学、解析学特論
物理系： 応用物理、応用物理特論
自然科学系： 地球環境科学、一般化学

２）基礎工学科目の内、下記の各科目群から少なくとも 1 科目、合計最低 6 科目を修得していること。

① 設計・システム系科目群 ② 情報・論理系科目群 ③ 材料・バイオ系科目群
④ 力学系科目群 ⑤ 社会技術系科目群

Ⅴ．専門工学科目は全て修得していること。

Ⅵ．「生産デザイン工学」プログラム科目を合計で 124 単位以上修得していること。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=4）

（概要）

専攻科の学士課程では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる能力が身につけられるように、以下に示す一般科目（人文・社会、外国語、数理・自然科学、情報）、専門科目（機械電気工学、物質工学、建築学）、特別研究Ⅰ・Ⅱなどからなる教育課程（カリキュラム）が体系的に編成されている。

（１）一般科目

一般科目では、特に学習・教育到達目標の「(C)世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成」を図るため、以下のような科目群を開講している。

① 英語（総合英語、実用英語） ② 社会（知的財産権、倫理学、歴史学）
③ 国語（中国古典学、文章表現法）

（２）専門共通科目

専門共通科目では、特に学習・教育到達目標の「(D)自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力を有する技術者の育成」を図るため、以下のような科目群を開講している。

① 地球環境科学 ② 技術者倫理 ③ 数学（線形数学、統計学特論、解析学特論）
④ 一般化学 ⑤ 物理（一般力学、応用物理特論） ⑥ 応用情報工学

（３）専門科目

専門科目では、特に学習・教育到達目標の「(A)あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成」と「(B)科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する技術者の育成」を図るため、各科目群を開講している。

建築学専攻では、本科で修得した技術をさらに深化させることを目的として、建築計画あるいは建築構造に関するより高度な専門技術の修得を目指している。そのため、建築学専攻の学生には、原則として、計画系及び構造系のいずれかの分野を選択し、それぞれの分野に特化した科目の履修を課している。なお、建築士法改正後も、建築学専攻の修了生は、従来どおり実務経験 2 年を経て、一級建築士を受験することが可能となっている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/data/%E5%B0%82%E6%94%BB%E7%A7%91_%E4%B8%89%E3%81%A4%E3%81%AE%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf#page=6）

（概要）

専攻科では、修了認定の方針(ディプロマ･ポリシー)に示す能力を持った学生を育成するために、教育課程編成の方針(カリキュラム･ポリシー)に定める教育を実施する。この教育に相応しい人材を以下に示す。

（１）科学と工学の基礎学力を十分に身につけている人

（２）より高い専門的な技術を磨く意欲のある人
（３）技術者として地域社会および国際社会の発展に貢献できる素養のある人
（４）社会性と倫理観をもち、自主的に行動できる人
　上記に示す人材を確保するために、高等専門学校（以下「高専」という。）卒業見込者で成績優秀者を対象に推薦選抜試験を、また高専や短期大学等（以下「高専等」という。）卒業者（卒業見込者を含む）　等を対象に学力選抜試験を行う。さらに、高専等の既卒者で、社会人としての実務経験を有する者を対象とする社会人特別選抜試験を行う。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/edu-info/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	7人	－					7人
機械工学科	－	2人	3人	0人	3人	人	8人
電気情報工学科	－	3人	4人	0人	3人	人	10人
物質工学科	－	2人	4人	0人	1人	人	7人
建築学科	－	2人	4人	0人	3人	人	9人
一般科目	－	5人	4人	1人	5人	人	15人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	54人	54人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/guide/researcher/

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
機械工学科	40 人	42 人	105%	200 人	202 人	101%	0 人	0 人
電気情報工学科	40 人	42 人	105%	200 人	206 人	103%	0 人	0 人
物質工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	211 人	105.5%	0 人	0 人
建築学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	206 人	103%	0 人	0 人
合計	160 人	166 人	103.8%	800 人	825 人	103.1%	0 人	0 人
機械電気工学専攻	8 人	13 人	162.5%	16 人	24 人	150%	0 人	0 人
物質工学専攻	4 人	8 人	200%	8 人	15 人	187.5%	0 人	0 人
建築学専攻	4 人	6 人	150%	8 人	14 人	175%	0 人	0 人
合計	16 人	27 人	168.8%	32 人	53 人	165.6%	0 人	0 人

（備考）

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
機械工学科	34 人 (100%)	15 人 (44.1%)	19 人 (55.9%)	0 人 (0%)
電気情報工学科	31 人 (100%)	14 人 (45.2%)	13 人 (41.9%)	4 人 (12.9%)
物質工学科	29 人 (100%)	8 人 (27.6%)	21 人 (72.4%)	0 人 (0%)
建築学科	35 人 (100%)	12 人 (34.3%)	22 人 (62.9%)	1 人 (2.9%)
機械電気工学専攻	12 人 (100%)	4 人 (33.3%)	8 人 (66.7%)	0 人 (0%)
物質工学専攻	7 人 (100%)	6 人 (85.7%)	1 人 (14.3%)	0 人 (0%)
建築学専攻	6 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (100%)	0 人 (0%)
合計	154 人 (100%)	61 人 (39.6%)	90 人 (58.4%)	3 人 (1.9%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他

	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）各授業担当教員が授業計画を作成し、シラバス担当者の内容確認を踏まえた上で、開講の前年度末までにホームページに公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）担当教員が、授業計画書に記載された成績の評価方法並びに評価基準に基づき、各学生の学修成果を評価し、単位又は履修を認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気情報工学科	167 単位	有・無	単位
	物質工学科	167 単位	有・無	単位
	建築学科	167 単位	有・無	単位
	機械電気工学専攻	62 単位	有・無	単位
	物質工学専攻	62 単位	有・無	単位
	建築学専攻	62 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/edu-info/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科 電気情報工学科 物質工学科 建築学科	234,600 円	84,600 円	118,320 円～240,920 円	（内訳） ・スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円 ・教科書・教材費等：約 100,000 円 ・学生会入会金：1,000 円 ・学生会費：4,400 円 ・寄宿料：8,400 円～9,600 円（寮生のみ） ・寮管理費：108,000 円（寮生のみ） ・寮生会費：5,000 円（寮生のみ） ・学生傷害保険：10,000 円（5 年分） ・学生生活補償保険料：1,370 円
	機械電気工学専攻 物質工学専攻 建築学専攻	234,600 円	84,600 円	57,209 円～179,809 円	（内訳） ・スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円 ・教科書等：約 50,000 円 ・寄宿料：8,400 円～9,600 円（寮生のみ） ・寮管理費：108,000 円（寮生のみ） ・寮生会費：5,000 円（寮生のみ） ・学生傷害保険：4,289 円（2 年分） ・生活補償保険：1,370 円（1 年分）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要）学生相談支援室を設置し、進路、勉学、就職活動のための面接指導など、教務に関する相談についての支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要）低学年については、キャリア教育用の教材を使った指導や学科別のキャリア支援室講演会を実施している。また、４年については本校ＯＢＯＧを招き、学科別の懇談会を実施している。また、本校キャリア支援室主催の合同企業説明会を年１回開催している。就職に関する相談については、キャリア支援室がクラス担任と連携しながら、学生への支援を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要）「自分探しをしませんか」をキャッチフレーズに活動しており「誰でも利用できる学生相談支援室」となるように外部から公認心理師、SSW、相談員に来ていただくことで学生の様々な悩みに応じている。さらに公認心理師２名には、保護者や教職員の相談にも応じていただいている。保健室には看護師を２名配置し、不在時間がないように運用している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/edu-info/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	G145110111610
学校名（○○大学 等）	都城工業高等専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		113人（ 83）人	114人（ 86）人	119人（ 89）人
内訳	第Ⅰ区分	21人	19人	
	（うち多子世帯）	（ －）	（ －）	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ －）	（ －）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ －）	（ －）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	25人	24人	
	区分外（多子世帯）	45人	48人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				119人（ 89）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	－
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	－
計	人	0人	－
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	－
訓告	0人
年間計	－
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	0人	－

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	0人	20人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	－	0人
計	人	－	20人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。